

## 令和3年度第1回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和3年8月23日（月）午前10時00分～午後0時18分
- 2 場所 青梅市役所 災害対策本部室
- 3 出席懇談会員  
山本懇談会員（座長）、西浦懇談会員（副座長）、ノートン懇談会員、  
奥菌懇談会員、土方懇談会員、片山懇談会員、南谷懇談会員
- 4 欠席懇談会員  
若林懇談会員
- 5 傍聴 1名
- 6 議事  
協議事項  
(1) 青梅市移住・定住促進プラン策定について  
(2) 青梅市の現状について  
(3) 移住者・定住者を増やすには

### （配布資料）

- 資料1-1 青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会員名簿
- 資料1-2 青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会設置要綱
- 資料2 青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会の会議の公開に関する取扱要領（案）
- 資料3-1 青梅市移住・定住促進プランについて
- 資料3-2 青梅市移住・定住促進プランに関するスケジュール（案）
- 資料4-1 青梅市の現状
- 資料4-2 異動人数別 転入・転出現状分析
- 資料4-3 市民の意識調査について
- 資料5-1 移住者と関係人口など
- 資料5-2 先進自治体の実践例

発言者	会議のてん末・概要
事務局	<p>(開会)</p> <p>第1回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会を始めさせていただく。座長が決定するまでの間、事務局が進行を担当させていただく。</p>
事務局	<p>1 市長あいさつ</p> <p>市長が公務のため、代わって副市長から御挨拶させていただく。</p>
副市長	<p>本市の人口は、平成17年の14万人2千人をピークに減少に転じ、この令和3年3月末には13万2千人を割り込むなど、人口減少に歯止めがかからない、非常に危機的な状態となっている。</p> <p>すでに本市では、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の中などで、人口減少の抑制に努めようと課題意識をもって取り組んでいるが、このコロナ禍で、ライフスタイルの多様化がますます進む中、これまでの総合的な施策だけでは、対処しきれない現状でもある。</p> <p>そこで、新たに「青梅市移住・定住促進プラン」を令和3年度に策定し、市の最上位計画である青梅市総合長期計画と連動を図り、10年後の将来像も見据えた取り組み施策に繋げていきたいと考えている。皆様には、当懇談会の場において、感じたままの生の声をお聞かせいただき、青梅の魅力を取り込んだプランの策定にお力添えをいただけると幸いです。</p> <p>青梅の魅力に惹かれ、「暮らしてみたい」、「暮らし続けたい」と選ばれるまちの実現に向け、御協力の程、お願いしたい。</p>
事務局	<p>2 座長、副座長の選出</p> <p>青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会設置要綱第4項第2号に「座長は、懇談会員が互選する。」と規定されている。</p>
懇談会員	<p>座長については、専門的な知見があり、中立的な立場での議事進行が期待できるため、山本懇談会員を推薦する。</p>
事務局	<p>皆様、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
事務局	<p>御異議ないものと認め、座長は山本懇談会員に決定。</p> <p>座長が決定したため、以降の進行は、設置要綱第4項第4号にもとづき、座長が行う。</p>

座長	副座長の選出を行う。懇談会設置要綱第4項第3号に「副座長は座長が指名する。」と規定されているので、私が指名する。 副座長には、西浦懇談会員を指名する。
事務局	3 会議の公開に関する取り扱いについて (会議の公開に関する取り扱いについて、資料2を用いて説明、また青梅市附属機関等の設置運営に関する指針にもとづき、議事録を作成・会議を公開することについて説明)
座長	議事録の作成・会議の公開について、事務局提案のとおり決定することで御異議ないか。  (異議なし)
事務局	4 議題 (1) 青梅市移住・定住促進プラン策定について (青梅市移住・定住促進プラン策定について、資料3-1、3-2を用いて説明)
座長	御質疑や御意見等の発言をお願いしたい。
懇談会員	本プランの上位計画と位置付けている「第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは何か。
事務局	まち・ひと・しごと創生法にもとづいて地方創生ということで青梅市においても策定したもので、現在、その計画は2期目となっている。この計画は3つの目標を持っており、一つ目が、「子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現」すること、二つ目が、「青梅に暮らし、働き、訪れる人々にとって魅力あふれるまちを創出」すること、三つ目が、「将来を見据えた、安全・安心なまちづくりを推進」すること。 人口減少等の状況を分析し、主に若者の定住促進や転出抑制を狙った施策の計画として進めているものである。
座長	それでは、説明のとおり進めていきたいと思う。

事務局	<p>(2) 青梅市の現状について (青梅市の現状について、資料4-1、4-2、4-3を用いて説明)</p>
座長	<p>日本全国で人口は減少傾向であり、青梅市の人口減少も致し方ない部分もある。例えば、資料によると、吉祥寺という人気の住みたいまちを抱える武蔵野市でも人口が減少している。</p> <p>皆様の御質疑や御意見等の発言をお願いしたい。</p>
懇談会員	<p>私自身がそうであるように、コロナ禍で、市民の意識や生活様式は変わったのではないだろうか。コロナ禍以降の情報があると良い。</p>
事務局	<p>紹介した青梅市の総合世論調査は5年に1度行っている。今まさに担当部署において、アンケート調査紙を送付し、取り組んでいると聞いている。アフターコロナでの動向が分かるようなデータがあれば、随時、懇談会で示していく。</p>
懇談会員	<p>資料から、住み続けたいと思わない理由の上位に、交通の便が挙がっている。私自身も感じていたが、ここ最近は感じなくなってきた。コロナ禍前は、都心部に通う必要があったが、リモートワークが中心になると交通の便の優先順位が変わってきた。こういう変化の中で、青梅市に対する考え方も自分の中では変わってきた。</p>
座長	<p>23区から近郊に転出している方が多いと聞いている。その近郊とは、青梅線沿線だと立川市や羽村市。羽村市に引っ越された方に聞いてみると、適度に自然や買い物の利便性があり、ライフスタイルを形成しやすいからのような。</p> <p>青梅市って良いよねというふうにしていければ良いと思っているが、リモートワークは、有効なツールとして活用できそうだ。</p>
懇談会員	<p>資料から、青梅市の空き家の分布は、中心部にある。比較として例を挙げると、日野市の場合は、丘陵地に空き家が分布している。空き家の発生要因は様々だろうが、青梅市の分布の場合は活用していきやすいのではないだろうか。</p> <p>また、福生市から子どもが小学校に入学するタイミングで転入する例が多いように思う。それは、子どもも大きくなっていく過程で広い住宅が買える青梅市に来ているとイメージしている。</p>

	<p>観光についてだが、青梅市の場合は、日帰り旅行者がほとんどで、宿泊客が少ないことがもったいない。宿泊客が増えると、観光客が落としていくお金も増え、仕事も増えるから、好循環と思う。</p>
座長	<p>空き家の分布が中心部に集中していることについてだが、青梅地区などの商店街がシャッター通りになっていることとの関係性はあるのだろうか。</p>
懇談会員	<p>調べてみたいと思う。</p>
座長	<p>国は、施策として中心市街地活性化を推進してきたが、車社会などを反映し、街中よりも郊外や幹線道路沿いに商業が集積してしまっている。他に御意見をお願いしたい。</p>
懇談会員	<p>住んできた感想として、黒沢でも空き家が出るとすぐ入居者が決まっていると見ている。あの辺で探しているという声も聞く。また、一軒家でシェアハウスをやっているところや、若い人もいる。シェアハウスだと単身の人も来やすいようだ。シェアハウス、多拠点居住等、を一人で提供するには大変だから何かハードルを下げられると良い。自然だけではなく、つながりを作るべきだ。</p>
座長	<p>黒沢は、芸術家の方が多いのではないだろうか。コミュニティが存在しているからなのだろう。</p>
懇談会員	<p>コミュニティは、寺を中心としたつながりがある。住職が、理解がある方が多いように思う。お寺の文化的な側面を感じる。</p>
座長	<p>神社も寺も、文化的な側面や歴史的な側面があり、これらを掘り起こしていくのも良さそうだ。</p> <p>シェアハウスについてだが、若い学生たちもシェアハウスを望んでいる。</p> <p>また、青梅は、固いブロックが存在する部分もある。歴史がある青梅地区辺りが特にそうだが、そこと新しく来た若い人たちがジョイントしていくのが大切。地元を巻き込んでいくのが必要だ。</p>
懇談会員	<p>市内で教室をやっていたときに、都心から来る生徒さんもいた。青梅市は環境が良く、一人当たりのスペースも広くて良いかららしい。</p> <p>また、受け入れてもらえると、その人に会いたいとなり、人に会いに来る</p>

	<p>部分もあると思う。</p>
座長	<p>青梅市は、森林が60%だが、林業は弱い。林業をもっと活用しても良いのではないかと考えている。</p> <p>また、宿泊型で何かできないかなと考えている。何らかの魅力を感じてもらえるものはないだろうか。ただ自然と触れ合うだけではなく、自然とアートを絡めて、自然をアートに融合し昇華させて自然と人間がコミュニケーションを深めることができるような方法もあると思う。</p>
懇談会員	<p>より深く関わるということだと思う。御岳のネイチャーツアーも知ることができなかったことを知るための関わり方の一つだと思う。</p>
座長	<p>その魅力が、住んでみたいと思わせることの一つなのだと思う。</p> <p>他に御意見はないか。</p>
懇談会員	<p>大手アウトドア企業の本社が〇〇県〇〇市にあるが、そこでイベントをやると2万人くらいが来る。すごいと思う。青梅で、コアなハイクオリティのキャンプをウリに、そこに興味を持つ層を狙うのも一つだろう。その意味で、アウトドア企業に働きかけたり、連携したりするのも良いのではないか。</p>
座長	<p>企業との連携も重要だ。</p>
事務局	<p>(3) 移住者・定住者を増やすには (移住者・定住者を増やすにはについて、資料5-1、5-2を用いて説明)</p>
座長	<p>御質疑や御意見等の発言をお願いしたい。</p>
懇談会員	<p>島根県で地域おこし協力隊に従事していたが、島根県浜田市では、ひとり親家庭に対して移住支援を充実させているときいている。</p> <p>定住施策には、ターゲットを絞り込むなどの特色が必要ではないか。出生率に対して、ここで生活したら幸せになれると思える街づくりが、効果的なのではないか。また、人間関係も重要ではないだろうか。</p>
座長	<p>若者が一度市外へ出ても、元の市のコミュニティの力が強くて、子どもが</p>

<p>懇談会員</p>	<p>生まれると戻ってくる市があると聞いたことがある。</p> <p>千葉県の東葛地区は、移住施策が成功して人口が増えている。東葛地区には、自然があり、アート、農業体験などがある。知人も東葛地区に転居した。その理由は自然と教育。</p> <p>定住するなら、子育て世帯は、教育を意識する。今の青梅は小中学校に魅力を感じられない。</p> <p>これからの教育には、語学と IT のスキルが必要だと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>教育は、文部科学省の領域で、施策を行うのは難しい部分があるが、学校教育と関連付ける形で何かできないか。</p>
<p>懇談会員</p>	<p>例えば、外国人と空き家をつなげたり、スタートアップ企業と空き家をつなげたりするのも良いのではないか。そうして呼び込んだ人材を活用して、語学や IT を学校教育に反映しつつ、空き家の活用にもつながる。</p>
<p>座長</p>	<p>教育は、ボランティアよりも、何らかの事業や企業と連携したプロジェクトのような形が望ましいと思う。例えば、横浜市では駅前保育において民間が運営し英語教育をしたところ、街に新たな魅力を生じ活性化したようだ。</p> <p>他に、御意見は。</p>
<p>懇談会員</p>	<p>自治会を巻き込んでいくと良いと思う。青梅の人は、青梅の自然が魅力だと気付いていない。親切だから、移住者や外の人が発信していく過程で、そこに自治会を巻き込めると更に良くなる。</p>
<p>懇談会員</p>	<p>ここ 10 年間ほど、児童・生徒数が減少している地域がある。ある地区の小学校では、新入生の数が 5 名まで減少したところもあり、危機感を抱いている。私の周囲でも、移住を希望する話を聞くが、提供できる住宅が無い実情がある。人口誘導には、住宅取得価格の安さの利点を生かして、使われていない空き家の利用や建て直しは必須と思う。また、移住者の定住化には、地域住民の取り組みも重要。</p>
<p>懇談会員</p>	<p>関係人口という意味では、中野区や港区で農産物を販売しているが、そこで買った人が青梅に来てくれている。そして、引っ越して来ようにも、青梅には良い物件が少ないため、飯能市に流れてしまっているように感じる。自分自身も農地近くに良い物件が探せず、農地とは別な場所に住んでいる。</p>

座長	通いで農業されている方が多いのか。
懇談会員	そう思う。
座長	考え方だが、従来のように農地に定住するのではなく、農地近郊から通いながら農業に従事するあり方は、ライフスタイルとして魅力ある農業スタイルを模索できるかもしれない。その際、利便性からは、青梅市の農地近くが望ましいと思う。
懇談会員	青梅市は、どの世代を呼び込みたいと思っているのか。
事務局	上位計画では、いわゆる子育て世帯の30歳前後の人口減少抑制を図りたいとしている。本日の御意見から、もう少しターゲットを絞り込んでも良いのだろうかとも捉えている。次回までにターゲット層をお示ししたい。
懇談会員	教育についてですが、生徒が少ない学校も増えてくるだろう。私は逆にチャンスではないかと思う。語学やITは生徒数が少ないほうが教えやすい。手厚く行えることがブランディングにもつながる。
懇談会員	青梅市だけでは限界を感じる。西多摩地域での連携があっても良いのではないか。奥多摩町は観光、福生市は基地があるから外国人との交流、県境を越えて飯能市と連携しても良い。
懇談会員	千葉県の東葛地区もそのような連携が見られる。
座長	米軍基地の人から英語を学んだという人もいと聞いたことがある。
懇談会員	基地内のアメリカの高校生たちとの交流経験がある。向こうも日本らしさとの交流を求めている。 また、空き家を活用して、空き家が連携のハブになればおもしろい。
	(4) その他 (発言なし)
	5 その他
座長	次回懇談会の日程について事務局からお願いする。



事務局	次回懇談会は、10月6日水曜日 15時からはいかがか。
座長	<p>皆様、御都合はいかがか。それでは、次回懇談会の日程については、ご了承ください。以上で、本日予定した案件は全て終了した。第1回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会を閉会する。</p> <p>(閉会)</p>